

庁議の概要

開催日 令和6年6月10日（月）

◎項 目

- 1 令和5年人口動態統計について
- 2 今週の動き

◎内容

1 令和5年人口動態統計について【健康政策部】

○ 健康政策部長

高知県内の令和5年人口動態統計月報年計（概数）によると、出生数は3,380人（過去最少）で前年（令和4年）よりも341人減、死亡者数は11,438人（戦後3番目に多い）で前年よりも34人減、これらを合計した自然増減は8,058人減少（過去最大の減少）となっている。

合計特殊出生率は1.30で前年よりも0.06減少。母の年齢別出生数については、5歳ずつで区切った年齢区分で見ると全区分で前年度から減少しており、特に25～29歳の区分では129人減で減少数が多い。この要因については、若年人口の減少に加え、婚姻件数の減少が影響していると考えられる。

婚姻数は1,985件（過去最少）で前年よりも204件減少している。全国的な未婚化晩婚化傾向に加え、コロナ禍による出会い機会の大幅な減少によって婚姻の前提となる交際成立の機会が損なわれたことの影響が大きいと考えられる。

県内人口の自然減は拡大しており、高齢化進行県では死亡数は大きな規模で高止まりになるため、当面の間は人口減少が続くことは避けられない情勢。

主な死亡要因を見ると、乳児死亡数や周産期死亡数は前年に比べて大幅に改善。死因別死亡数は多いものから悪性新生物、心疾患、老衰、脳血管疾患の順となっており、この傾向は全国と同様。新型コロナウイルス感染症による死亡は前年と比べて減少、全国順位で見ると2位（前年1位）となっている。

自殺については121人で、前年の131人から10人減少、人口動態統計において3年ぶりに減少した。男女別でみると、男女比が3対1で圧倒的に男性が多い。原因・動機別では健康問題、経済・生活問題、家庭問題の順に多くなっている。

○ 総合企画部理事

県としては人口減少対策のマスタープランとなる「高知県元気な未来創造戦略」を策定し、全庁を上げて人口減少に歯止めをかけ、反転に向けて取り組んでいく姿勢を県民の皆様に示していく。

今後、今回の結果も踏まえ、若年層へのヒアリングやアンケート調査、データ分析などによりさらなる要因分析を行い、外部の有識者等の意見も伺いながら取り組みの強化を図るとともに、来年度の戦略の補正も検討しながら取り組んでいく。

6月12日に人口減少PTを立ち上げる。人口減少対策のPDCAを回していくとともに、人口減少対策への取り組み意識を共有していきたいと考えている。

○ 知事

人口動態について厳しい結果が出ているが、高知県元気な未来創造戦略に沿って対策を進めながら、下半期に向けて様々な分析や作業をしっかりとっていくこと。共働き・共育等について、単独でできるものについては準備をしていき、準備が整い次第実行していくこと。

2 今週の動き【各部局等】

〈主な協議の概要〉

○ 政策提言【総合企画部】

合区解消や人口減少対策に関する四国知事会緊急提言を6月12日、13日で実施。

○ 能登半島地震被災地の知事視察【危機管理部】

6月11日に能登半島地震で被害の大きかった石川県珠洲市、輪島市を知事、危機管理部長、土木部長が視察。

○ 関西版高知県産品商談会【産業振興推進部】

関西戦略の一環として、6月11日、高知県立ふくし交流プラザで関西版高知県産品商談会を開催。県内企業68社、関西からは約50名のバイヤーが参加予定。